

組織名	株式会社永耕農産 えいこうのうさん （代表：辻川 清和）	農業地域類型	山間農業地域
経営理念	農地を守り続け、次世代に	社員等	役員5名、臨時雇用4名
経営面積	98.0ha（水稻59.0ha、飼料用米16.0ha、大麦10.0ha、大豆9.0ha、ソバ2.0ha、キャベツ等2.0ha）		



小浜市

1. 経緯

- 平成17年、小浜市松永地区において、ほ場整備による大区画化を契機に小浜東部営農生産組合（任意組織）を設立。平成19年、地域の担い手として農地を守るため農事組合法人を立ち上げた。
- 平成21年、ほ場整備が完了し、多様な農産物の生産が可能となったため、キャベツや白ネギ等の**園芸作物の導入と併せて直売所を整備し、「儲かる農業」の取組**を開始。
- 法人の構成員や地区の農業者の高齢化が進み、地域農業の崩壊に危機感を持ったため、法人の構成員や地区の農業者を交えて現状地図をもとに話し合いを行い、平成28年6月に**将来の設計図（地域農業の目標とする姿）を作成**した。設計図をもとに集積・集約化が行われ、法人の経営面積が約100haに拡大した。
- 地域農業を守るためには、組織を魅力ある職場にして若者の雇用を維持**することが重要であると判断。利益を上げるために合理的な組織運営ができるよう、**農事組合法人を農業経営部門と農地の保全管理部門に分離するとともに**、平成29年5月に**農業経営部門は株式会社化**した。
- 現在、農業経営部門（2階部分）を永耕農産が役員5名（監査役1名を含む）と臨時雇用4名で担い、保全管理部門（1階部分）を一般社団法人あんじょうしょう会が、旧生産組合の高齢の構成員や地域住民等で担っている。

2. 課題と対策

- 地区内では若い担い手の確保が難しいため、**地域おこし協力隊等の就農希望者を法人で研修生として受け入れて育成**。



永耕農産の理念が刻まれた石碑



（株）永耕農産の社屋



田んぼアート



自社ブランド「松のみどりの」をネットなどで直売



地域の賑わいにつながっている直売所



地域住民との連携



若手役員が主体的に活躍

3. 特徴的な取組や工夫していること

- 令和元年、2年に、農業研修を経て若者2人（41歳、32歳）を雇用。**令和5年には、経営の発展を目指して役員へ抜擢**。
- 家庭を持つ若手役員の生活を守るため、家族の時間が持てるよう、残業無し、週休2日の勤務形態を基本とするなど子育て世代に配慮している。
- 若手役員の担当業務を明確にし、**主体性と責任感を持たせている**。
- 若手役員はチャレンジ精神が旺盛なため、投資に伴う出費もあるが、**「営農への改革心を持たせ、共に会社を良くしていく」を育成方針**とし、創意工夫を受け入れて成長を見守っている。
- 加工用キャベツは、機械化が可能で収量が見込めるため、栽培面積を増やして冬場の所得確保を図っている。**コメは、独自の取引先を確保することで収益性を高めている**。
- 直播栽培（約30ha）により農作業の省力化を図っている。
- 毎日（朝、昼）、役員4人で打ち合わせを行った後、**従業員とミーティングを行うことで効率的な作業を進めている**。
- 地域の農産物も法人所有の直売所で販売し、**地域の農業者の所得向上に貢献**している。

4. 今後の目標

- 更なる経営面積の拡大に際しては、子会社を設置して**独立を目指す若手役員にその経営を任せ**、親会社としてサポートしながら地域の農地を守っていく。